



しやや 今のつるま

有也 和名云驛 唐令云每三十里一驛

若地勢險阻及無水 處隨緣置之 延喜

式凡諸國驛路邊植 菓樹令往來人得休息

近江栗本郡和名云 野口和名云丹

波 船井郡又周防玖珂郡 和名云伊

野 野麻ニヤ 曰云越後古志郡夜麻

山和名云野名 菜平也古法淨の地

三代實録云量仲舒祭法 燧騰賊害五穀之時於宮食之列縣内清淨處解

之儀之故命法陽寮於城北 船岡修此祭蓋擇清淨之處

和名山城 誠郡 靱岡 梁塵秘抄 神樂株物奇 和名云ハ

人えの 任官物 子目 出く 和名云ハ

ひまやハ

あしき

むまや

表ある事とすり

乃まき

まのハ

あまをり

ひまや

人えの

本郡

信濃

大和片里

本身

延喜式太神

國山邊郡石上坐布留御

龍神社 日本紀神代卷

大蛇をもち多る劍蛇

乃鹿正と名づく是今

石上坐布留御

皇統記神武天皇

布留と名づく

間見余と名づく

石上坐布留御

神武天皇昔女は

と流しに上り

流き方物と名づく

破るに布留と名づく

是と名づく

故よ布留と名づく

石上神加正一位

部郡と延喜式あり

日本紀神功皇

照大神乃と名づく

居人たあま

平狭藩と名づく

やろ

つらやろいしは社

たまちらやろ

あまのつらやろ

このつらやろ

せまのつらやろ

くんのつらやろ

心のつらやろ

乃島あまのつらやろ

成ぬとつらやろ

とをまのつらやろ

うらよろのつらやろ

人乃つらやろ

れがせうらちら

くろらちら

いとならちら

まうらちら

ていさつら

それらちら

あまのつらやろ

あまのつらやろ

あまのつらやろ

しきき 流黄 俗黄
俗の百首 ロウの
みまじく 流黄 俗黄
けのえと 流黄 俗黄
すづる 昂星 和名六
星乃火神 明星 和
名乃 明星 和名
神乃 明星 和名
あつ 長庚 和名太白
星の一名 明星 和名
あつ 流星 和名
よひ 流星 和名
名を 流星 和名
あつ 流星 和名

去色 古物の
知り

十八日 勝尾寺
観音を 勝尾寺
寶亀 勝尾寺
八月 勝尾寺
十八日 勝尾寺
四天 勝尾寺
妙観 勝尾寺

とありて 流黄
おん 流黄
月を

と明 明星

すづる 明星

よひ 明星

あつ 明星

おん 明星

月乃 明星

とあり 明星

おん 明星

あつ 明星

おん 明星

あつ 明星

とあり

と云ふほどなりしに
より國俗十八日を觀

音の目とすし
かみあかす髪を下す
してゆいすま

唐錦の革帯とや
革帯は越名わし
金の玉る角とよめ

をあすぬし或は白玉帯
馬腦帯 紀伊名帯
出中る帯 班犀帯

鳥犀帯のつづい
順和名よあけり
桃女葉葉ももろ

ひびきのあま
逆世の智の進退
母は門りよ

え乃ゆれ 官乃部
巫祝乃れし
巫祝ハ神より

かかれや又神より
わらわて
まふまふ

んあわ乃ぢん
公事根原
雷鳴陣とハ昔

大将以下近來の
次將とて
弓矢を帯きて

權志せりし
將監以下ハ皆
葉葉とをきり

ハ大内乃
秋衣芳金とハ
雷鳴乃を登り

人ハ將監
弓下府は
近來等と云い

かゝる乃く
れ帯のうら
ひぶるれ

ま
ことしあけ
ある物
あけのせれ

え乃ゆれ
こいんよ
人舟う
物も

んあわ乃ぢん
れ金人
すま
い

をあすぬし
或は白玉帯
馬腦帯 紀伊名帯

出中る帯
班犀帯
鳥犀帯のつづい

順和名よあけり
桃女葉葉ももろ
唐錦革帯とや

革帯は越名わし
金の玉る角とよめ
をあすぬし

或は白玉帯
馬腦帯 紀伊名帯
出中る帯

班犀帯
鳥犀帯のつづい
順和名よあけり

桃女葉葉ももろ
唐錦革帯とや
革帯は越名わし

金の玉る角とよめ
をあすぬし
或は白玉帯

馬腦帯 紀伊名帯
出中る帯 班犀帯
鳥犀帯のつづい

順和名よあけり
桃女葉葉ももろ
唐錦革帯とや

革帯は越名わし
金の玉る角とよめ
をあすぬし

七月相模乃節
とて
幕中より
り
まね
撥人ども
とて
皆
勇力乃

はりきお

い
やう乃
せ
ち
ら
の
り
を
ん

あ
じ
の
女
も
お
り
を
ん
ひ
出
る
の
り
れ

ゆ
も
け
る
の
紙
あ
ま
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

わ
あ
ま
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

く
も
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

の
ぐ
は
を
ん
わ
ね
の
り
と

お
の
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

お
の
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

お
の
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

お
の
の
を
ん
わ
ね
の
り
と

月のみれ
小辨ま
ぬき
ぬき
ぬき

ぬき
ぬき
ぬき

ぬき
ぬき
ぬき

ぬき
ぬき
ぬき

三人のめいりなれど
一は陽師のりん
あやめりなれど
これらふのうい

愚痴ある男よりいぬ
りりや入を 曼き男
押す、りりやのあこ
本と一はりりやのあこ男
をもはええとのい

上を丁 二のめいり
春宮大吏 百寮訓要云
一はら大納言の上り
よある規模乃及し名
家の人なりはあふり
坊中れり大吏執権

乃大乃大將 左近未大出未大將
まよりり武勇乃職也
人、相り執とも職し
あふり也りあを常とも
大納言 大納言とあふり
及也下りりりりりり
相り下りりりりりりり
三人を置く 天長六年
九年より又正員二人
近來は只推大納言推中納言

播中納言 中納言とあふり
言子同 又和む人
宰相中將 各派中將也
す、是也 文武ありて
中將の由未乃下折
す、是も禁中
三位中將 大長乃子
將乃始ハ藤 時平
春官推の大吏 百寮訓要云
侍従宰相 各派乃侍
下りり右左これ執と

めをさしりらるくわわくあしりる
三人のめいりなれど
今小女をあんや
ひらひらひらひら
人をもさしりらるく
上を丁部ハ
春宮大吏 乃大乃大將
宰相中將 三位乃中將
人をもさしりらるく

百寮訓要云 近未府
乃大乃大將 左近未大出未大將
まよりり武勇乃職也
人、相り執とも職し
あふり也りあを常とも
大納言 大納言とあふり
及也下りりりりりりり
相り下りりりりりりり
三人を置く 天長六年
九年より又正員二人
近來は只推大納言推中納言

播中納言 中納言とあふり
言子同 又和む人
宰相中將 各派中將也
す、是也 文武ありて
中將の由未乃下折
す、是も禁中
三位中將 大長乃子
將乃始ハ藤 時平
春官推の大吏 百寮訓要云
侍従宰相 各派乃侍
下りり右左これ執と

天正八 訖西大臣

天正八

乃昌をすす美族も

以中將 権中將

四位少將

義人兵部

中院兩院 花園院

義人少納言 春官乃寸竹

義人兵部

家之より後身也二采

法師ハ

律師

内供

西園寺 徳大寺

律師

内供

院より之を菊亭

律師

内供

大炊門外我轉注情

律師

内供

皆も信長に但信長の

共

比ハヨシの家

律師

内供

以中將 義人兵部

律師

内供

友と兼之也百寮訓要云

律師

内供

重代の人之長運と名家

律師

内供

大女中兵少将権女一人

律師

内供

兵部也 愚業兵友

律師

内供

以中將 義人兵部

律師

内供

権中將 別後

律師

内供

是れ思也近代人

律師

内供

義人兵部

律師

内供

志く兵友を兼之

律師

内供

義人少納言 又位 義人

律師

内供

つとことよ 源華云

律師

内供

下ありゆをつとことよ

律師

内供

乃者何れとも也 故ま

律師

内供

春官乃寸竹 百寮云

律師

内供

義人の兵部外 又位 義人

律師

内供

園乃名也 以中將 義人

律師

内供

とす 又官中 巡檢

律師

内供

法師ハ

律師

内供

律師

律師

内供

名律師 一字者律 字也

律師

内供

内供 内供奉とあり

律師

内供

猶續日本記 尚侍

律師

内供

内侍のしけ 尚侍

律師

内供

尚侍 唯不得奏請 宣傳

律師

内供

掌侍 唯不得奏請 宣傳

律師

内供

掌侍 唯不得奏請 宣傳

律師

内供

掌侍 唯不得奏請 宣傳

律師

内供

いさなりわび 草香 源
 紋 源

ひしはあいらねき う
 今衣冠とりて 紅の袖 あこめ

めさう 馬道 さ
 戸を さ

あがらん 検校 左
 あ
 い

ふえあり 拾遺 辛
 甲寅 二月己卯 辛
 辛酉 下界 月 凶

位 源

の 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

を 源

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

すわうき... 俵は
積魔をい俵を
ごふ人のちちり
我まをい俵を
比まをい俵を

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

りやとけ...
くえゆ...
ま...
おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

おのころの草とりし
いものすゝみそとらふ
て秋風の吹 古金無
わをういれしふみぞ
箱の種を上うてお
田丈乃 葦居るとい
ふめくら 蜘蛛 和茶茶和
ませ板あのとてきい
まき板あとりて帰
教上のぞし 合ま
川入合まきぶ野

あつふにせうらんし。六月、人の八節
のうひしめくをいふ
ねがひていふ
まうらうのうひの
續の表稿

すわらうのうひ、まのト
論を著書乃ト
わい名付すわらう
黒いりたれを黒
禁色を強し人
美之と性書書
あり
くろく人い 黒半
桃書云ふハ生乃
文三書い
少く保之細
い
付之
人
人

これとせん
情書
親
こと
ま
ま
上
親
又
つ
論語曰子日
子書人
父母兄弟
大學曰宜克
而後可以教
國

春書十

あつふにせうらんし。六月、人の八節
のうひしめくをいふ
ねがひていふ
まうらうのうひの
續の表稿

すわらうのうひ、まのト
論を著書乃ト
わい名付すわらう
黒いりたれを黒
禁色を強し人
美之と性書書
あり
くろく人い 黒半
桃書云ふハ生乃
文三書い
少く保之細
い
付之
人
人

これとせん
情書
親
こと
ま
ま
上
親
又
つ
論語曰子日
子書人
父母兄弟
大學曰宜克
而後可以教
國

春書十

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page. It includes several lines of text with some variations in ink density.

我流らんーありや
人におかしあ仲は我
貴人の血月をえ金也
くちかちか

Handwritten text in a cursive script, possibly a title or a short note. It includes the characters '徹書記' (Chōshōki).

Handwritten text in a cursive script, the main body of the page. It contains several lines of text, some with small annotations or corrections written above or below the main lines.

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

おはようのあはれ...
おはようのあはれ...
おはようのあはれ...

書 輩也又相助匪徒為黨

皇天定之乃後多入

をわけしちくみり

あやかり人の中をわ

てはるり

れん

はちん

はちん

はちん

はちん

はちん

はちん

はちん

はちん

はちん

余書十

まもりしうれ

わらわは今のわり

相いあがよわ

こちこし

入

中

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

十九

きこつてはきこつて

ほろりたる命のつと

とつとつとつとつと

わらわればお命様も

えりくちげふと

お命のあつたお

あつたお命様

お命のあつたお

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

をきこつてはきこつて

ほろりたる命のつと

とつとつとつとつと

わらわればお命様も

えりくちげふと

お命のあつたお

あつたお命様

お命のあつたお

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

あつたお命様

つらうし

ほろりたるあめり
初春今難上は春泉
院内時流らうし
新成採花とてさ
とあるを東野列伝
作花のよせと

花のりあふきこぞ
とよこお目れぬ
山の採花とてさ
わらわら
こゝろごりあめ
おまごしとらわら
こよ二葉のえと儼
けうれさればと

けらうくぐりけら
つらう山あれたあ
みけらういあわ
まらけらうま
只あまをくわ
おまごしとらわら
こよ二葉のえと儼
けうれさればと

まごし
並居し

らまふらうけははらり
くめてまのうけ
呼子あ犬あどい
たうま梅乃一丈
さやうもく今
さうあまうら
めれとえやうは
わ白ひうら
うらまわりん
んごうは
らわらあ
どめあ

けらうくぐりけら
つらう山あれたあ
みけらういあわ
まらけらうま
只あまをくわ
おまごしとらわら
こよ二葉のえと儼
けうれさればと

元嘉六年...
のち...
...

此亦人子也...
...

自のこのま...
...

伯小陳平...
...

武アのせ...
...

三月...
...

遊...
...

わ...
...

い...
...

今...
...

...

...

...

...

...

...

...

あきくちわんくわん
拾遺集 同くくくく
うたれたるをえん
あきくちわんくわん
こいせ

あきくちわんくわん
拾遺集 同くくくく
うたれたるをえん
あきくちわんくわん
こいせ

あきくちわんくわん
拾遺集 同くくくく
うたれたるをえん
あきくちわんくわん
こいせ

あきくちわんくわん
拾遺集 同くくくく
うたれたるをえん
あきくちわんくわん
こいせ

あきくちわんくわん
拾遺集 同くくくく
うたれたるをえん
あきくちわんくわん
こいせ

早よも侍し
早やしも殿のたぐ
ませやまに侍し
見らう殿の悪敵を
まばらせりんとしや
しきりて
ちり小くちりつれ
拾遺三人九我ごよ

中の中も侍り
あもやも侍り
あつた侍り
いなきれ侍り
めくまを侍り
うくまを侍り
あの手を侍り
あの手を侍り

我下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り

と侍せし。あつた侍り
ありつる。侍下り侍り
と侍せし。あつた侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り

あつた侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り
侍下り侍り

あつて八月九日の夜
およ二月朔日の夜
のまのいせまのいせ
二月の八月は
經供奉仕十月
左の退仕
の心用
日の馬
まわれ
まわれ
まわれ
まわれ

あつて八月九日の夜
およ二月朔日の夜
のまのいせまのいせ
二月の八月は
經供奉仕十月
左の退仕
の心用
日の馬
まわれ
まわれ
まわれ
まわれ

あつて八月九日の夜
およ二月朔日の夜
のまのいせまのいせ
二月の八月は
經供奉仕十月
左の退仕
の心用
日の馬
まわれ
まわれ
まわれ
まわれ

あつて八月九日の夜
およ二月朔日の夜
のまのいせまのいせ
二月の八月は
經供奉仕十月
左の退仕
の心用
日の馬
まわれ
まわれ
まわれ
まわれ

あつて八月九日の夜
およ二月朔日の夜
のまのいせまのいせ
二月の八月は
經供奉仕十月
左の退仕
の心用
日の馬
まわれ
まわれ
まわれ
まわれ

れど 治ホトトシ
 みるくがとかがかりし
 佛厨まが英止がりてあ
 車小のせりしちよよ
 づら車あれがたとい
 とくちもてさ首危し
 又年トリひらきごんぬ
 うつくさふ

心ちぬぬにう制す
 りゆきまをせせせ
 るるりやうまがら
 弁車すると制せ
 りしし
 らのくはうし
 びんまのねを信
 の女唐をせと
 信かめゆしち
 信かめゆしち
 首危し信をのき
 ちえめしんさるのてん
 車のおね定はのげ
 印しんさうよう

人びんぞりさくし
 のるま〜ゆつとふ
 ゆつと〜ゆつと
 せりげりゆつと
 又あ〜ゆつと
 どれ〜ゆつと
 互持ん〜ゆつと
 本車〜ゆつと
 せい〜ゆつと
 ばり〜ゆつと
 ち〜ゆつと
 が〜ゆつと

原
 十口田はる
 び

春曙おしは

